

市長定例記者会見 ２００９年５月２６日

- ・ 日 時 平成２１年５月２６日（火）午前１１時００分～
- ・ 場 所 本館３階第１会議室
- ・ 記者数 １５人

議題 「新型インフルエンザの状況」について

（市長）

まず、新型インフルエンザの状況について説明をさせていただきます。政府は、新型インフルエンザの対応について５月２２日、新たな基本的対処方針を発表いたしました。そのポイントにつきましては、すでに報道されておりますとおり、感染者・患者の発生した地域を大きく２つのグループに分けて、「患者発生が少数であり、感染拡大防止に努めるべき地域」では、これまでと同様、患者については指定医療機関への入院とし、感染が疑われる人の診療も発熱外来で行い、学校・保育施設等については市区町村の一部や全部、場合によっては、その都道府県全部での臨時休業を国が要請することになっています。一方、「急速な患者数の増加が見られ、重症化の防止に重点をおくべき地域」では、生活や経済への影響を最小限に抑えるため、症状が軽い人の自宅療養や一般の医療機関での診療および学校・保育施設等の臨時休業は設置者等の判断とするなど、柔軟な対応をとることになっています。現在、松山市では新型インフルエンザの感染は確認されておられません。しかし「発熱相談センター」開設以来、昨日まで相談件数はすでに１，０００件を超えております。国内発生以来、相談件数が増加しており、２４時間体制の「発熱相談センター」の運営、医療機関からの疑い症例の報告に基づく調査および発熱外来の受診対応など未発生期ではあるものの、感染地と同様、業務が増大しております。今後、市内での発生や業務の長期化を想定しますと、保健所全職員で対応している現状の勤務体制を見直して、体制強化を検討しなければならないと考えております。また、今後の感染の発生を想定した医療体制につきましては、発熱外来の確保や発生段階に応じて、発熱外来対象以外の発熱患者が安心して受診できる環境を整えるべく、愛媛県および松山市医師会等関係機関と協議を進めているところでございます。なお、マスク・消毒液・タミフル等の備蓄資材については、すでに一定量を確保するとともに、今後も必要とされるものは、順次確保してまいりたいと考えております。

次に、節水のお願いをさせていただきたいと思っております。本年４月以降の降水量は本日まで、平年に比べて極端に少ない降雨量となっております。この結果水源の状況は、石手川ダムの貯水率はほぼ平年並みであるものの、地下水位は平年値を大きく下回っておりまして、梅雨入り前ではありますが、今後の降雨次第では厳しい事態が想定されるため、去る２２日からさまざまな渇水対策を開始しております。市民の皆さんには、「一人一日バケツ一杯１０リ

ットルの節水」にこの時点でご協力をいただきますようお願いを申し上げたいと思います。
わたしの方からは、以上でございます。

（質問）

国が22日に発表した、新たな基本的対処方針についての市長の考えは。

（市長）

以前にもお話ししたとおり、詳らかな情報はすべて国が一元管理していますから、打ち出される方針というものを信じて、それに基づいて現場で対応するということに尽きると思っています。

（質問）

この新たな基本的対処方針に沿って、市の新型インフルエンザ対策計画を変更する予定はあるのか。

（市長）

基本的にはありません。

（質問）

発熱相談センターの勤務体制の見直し強化を考えているということだが、具体的にはどういうことか。

（市長）

今も関係機関と協議中で、例えば医師会で現場でどこまで対応していただけるのか、これも明確な方針というものは今の段階では出ていませんので、そういったことも踏まえ、人員がどの程度必要なのかということについて精査するということになります。

（質問）

昨日、河村官房長官が「日を追うごとに発生が減っている。すべて収束したと宣言するところまではいかないけれども、収束の方向に向っているという感じを持っている」と発言したが、これについて市長はどうか。

（市長）

まだ気を抜けないので、緊張感を持って現場を指揮していきたいと思っています。